

2012 アジア自動車部品産業

低価格戦略車とグローバルサプライチェーンを支えるコスト競争力

対象国 韓国、台湾、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナム、インド、パキスタン

■ 発刊：2011年11月 ■ 体裁：A4判、230頁+CD ■ 価格：140,000円（税込147,000円）国内送料込

- ◇ 内需と輸出の両輪で成長するアジア自動車部品産業の現況と将来を鳥瞰
- ◇ 低コスト戦略車の市場投入を加速する自動車主要各社の事業動向を分析
- ◇ 低価格車と世界の供給網を支える主要部品企業100社の事業動向を解説
- ◇ アジア主要8カ国の自動車部品企業ダイレクトリー（2,970社）をCDに収録



アジア自動車部品産業は、内需拡大と輸出拠点化により成長を続けています。高い経済成長をみせるインドやASEANでは、自動車生産の拡大に伴って部品メーカーが増産投資を活発化しているほか、低価格車による製品競争が激しさを増すなか、自動車各社や部品サプライヤーは従来よりも踏み込んだコスト競争力の獲得を目指しており、その低コスト技術に注目が集まっています。また、コスト競争力の高さと品質向上を背景にアジアを世界への部品供給拠点、分業・補完拠頭に位置づける動きが加速しており、グローバルなサプライチェーンにおけるアジア地域の重要性が一層増大しています。

アジアでは、各国の経済発展度や競争基盤が多様であることから成長シナリオとリスクも様々です。インドでは、中長期的に自動車生産が1,000万台に拡大すると見込まれ、現地企業や主要外資が積極的な投資を進めています。また、欧米などへのパワートレイン部品の輸出拠点としての成長も期待されます。ASEANでは、タイとインドネシアを中心に投資が拡大。「アジアのデトロイト」を目指しているタイは、ASEANのハブ拠点としての地位を確立しており、こうしたなかで包括的層の厚い部品産業が形成されつつあります。一方で2011年秋に洪水リスクが顕在化しており、ASEAN域内ではリスク分散のための分業・補完体制の再構築が進むと考えられます。域内最大の人口を持つインドネシアは、低価格車の生産・販売促進策を導入し、自動車および部品産業の成長力の最大化を目指します。また、マレーシアやフィリピン、ベトナムなども生き残りをかけて成長戦略を模索。韓国と台湾は、それぞれ海外市場の開拓を目指すとともに、電気自動車やハイブリッドカーなどの環境車分野での世界的なプレゼンス獲得を狙っています。

『アジア自動車部品産業2012』は、アジア地域の部品産業が持つ成長機会とリスク要因を分析するとともに、将来に向けた発展の方向性を展望する調査報告書で、主要9カ国の部品産業の現状と成長シナリオ、主要な自動車メーカーの生産・調達に関わる動き、主要サプライヤーの事業動向をまとめる内容となっています。

当案内書を高覧の上、是非とも本書をご採用賜りますようお願い申し上げます。

【アジア、自動車産業・部品産業の概況（2011年央現在）】

- <パキスタン>** 自動車組立産業、部品産業の発展ベースは緩慢で、産業基盤の集積は進んでいない。政情不安などから内需拡大が進んでこなかったことから、製造業への投資は限定的。
- <韓国>** グリーン成長戦略を推進する計画で、ハイブリッド車、EVなどの環境関連技術に対して官民ともに投資を拡大。また、中国、インド、ASEAN、EUなどとFTAを開始し、輸出競争力を強化。韓国サプライヤーは、現代自動車依存からの脱却を目指しており、日米欧のOEMメーカーからの受注が拡大。
- <日本>** 円高進行で、輸出競争力の低下が深刻化。海外製部品の流入も進んでいる。円高は正やFTA拡大などによる競争環境の改善が急務。
- <台湾>** 電気自動車分野と中国大陸産業を強化。また、エレクトロニクス産業を活かす成長策を模索。2011年1月発効のECFA（海峡兩岸経済協力枠組み協定）により中国への輸出拡大を期待。
- <フィリピン>** ASEANにおける変速機などの供給拠点。自動車産業への投資低調のなか、自動車産業の再興・活性化に向け、投資優遇策や中古車輸入の規制強化に改めて取り組む方針。
- <ベトナム>** 労働集約型分野や二輪車関連の部品メーカーが進出。労働コストが低いため分業拠点として一定の競争力を持つ。2018年の完成車に対する関税撤廃までに競争力獲得が問われる。
- <タイ>** アジアのハブ拠点「Detroit of Asia」を目指すなか、ASEAN最大の自動車・部品生産拠頭に成長。鉄鋼などの素材分野の強化が課題。トピックアップと小型乗用車（Eco Car）の生産・輸出拡大により、自動車生産は2015年に250万台と予測される。
- <インドネシア>** 近年、日系を中心に部品企業の工場進出が増加基調。2.4億の人口を背景に需要拡大が期待される。インドネシア政府は2012年開始に向けて低価格グリーンカー（LCCG）プロジェクトを検討。
- <インド>** 小型車と部品の輸出拠点化を目指す。生産・輸出は拡大基調で、2010年の自動車生産は350万台を突破。インド自動車部品工業会は、自動車生産が2015年に650万台、2020年に1,000万台~1,200万台に拡大する可能性を指摘。
- <マレーシア>** Proton保護などを背景に、グローバル展開は進んでいない。高付加価値部品や次世代環境技術・製品への投資獲得が課題。
- 中国メーカーのASEAN・インド進出が増加**
- インドとタイで新型小型車の生産が拡大。日系中心にインド-ASEAN間の生産補完が拡大**
- AFTA進行。タイとインドネシアへ完成車生産集約へ**
- 日本からタイへ小型乗用車の生産移管が進む**

アイシンググループ

【事業概要】 アイシンググループのアジア事業をみると、アジア市場を始め、アイシン高圧、アイシン・エアロ、アイシング・システムなどの子会社がタイ、インドネシア、台湾、インドに生産拠点を置き、トヨタグループを中心に様々な部品を供給している。こうしたなか、最近では ASEANを中心に生産能力の拡充を進めているほか、現地で生産する高品質を確保したり、生産工程の現地化促進などにより、さらなる原価低減に取り組んでいる。

【事業動向】 アイシンググループは、リーマンショックを受けてアジアへの投資を抑制していたが、2010 年からは再びタイとインドネシアを中心に設備投資を行っている。一方、需要拡大が目立つインドでは、Aisin Bangladesh に生産拠点を設置するとともに、低コスト製品の製造や生産拠点の設置、営業の強化などが図られている。

タイでは、2010 年 4 月、アイシンの現地子会社 Aisin Thai Automotive Casting がタイニングチェーンケースやインナーフューエルホールドなどを生産開始した。同社は、Siam Aisin のエンジン部品事業を分離独立する形で設立されており、この母体には生産体制を目的別に再編することで効率的な工場運営を目指す意向がある。

主要部品メーカーの事業動向・計画を分析

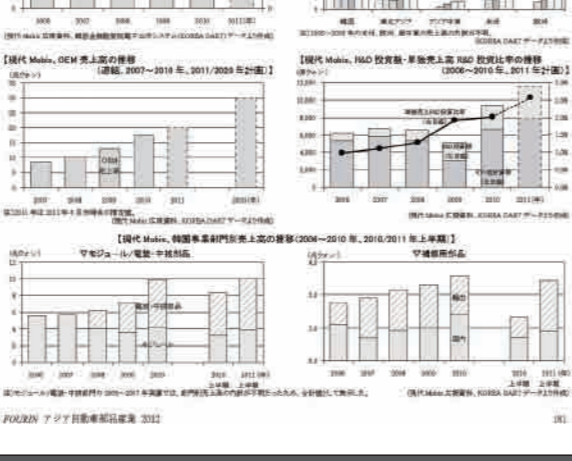
現代 Mobis (韓国)

【事業概要】 産額が 16.8%を出資する現代 Mobis は、韓国部品業界で売上高 1 位の最大手部品メーカーで、2010 年産額売上高(22 兆ウォン/118.5 億米ドル)では世界 14 位となった。1977 年 7 月に現代精工として設立し、主にコンテナー、特殊設備、鉄道車両などの製造をしていた。1989 年に入り、SUV などの完成車組立事業に参入、三菱自衛隊の技術供与により Galloper(三菱自衛隊)などを生産したが、1998 年のアジア通貨危機による事業悪化から、1999 年に SUV 生産事業を現代自動車に売却し、自動車事業を専門に自動車部品に注力している。

【現代 Mobis、産額売上高・販売比率の推移(2006~2010 年、2011 年計画)】

【現代 Mobis、H&D 投資額・車載売上高 H&D 投資比率の推移(2006~2010 年、2011 年計画)】

【現代 Mobis、韓国自動車部品売上高の推移(2006~2010 年、2011 年計画)】



「第4章 主要自動車部品企業100社のアジア事業」より

「第4章 主要自動車部品企業100社のアジア事業」より

申込方法 当調査報告書は書店では取り扱っておりません。お申し込み、お問い合わせは、申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送下さい。またE-mail (info@fourin.jp) による受付も行っております。

世界自動車産業専門調査会社
FOURIN (フォーイン)
 〒464-0025 名古屋市中千種区桜が丘292 フォーインビル
 TEL : 052-789-1101 FAX : 052-789-1147
 http://www.fourin.jp E-mail : info@fourin.jp

申込書 **アジア自動車部品産業 2012** (HP)
 ● 体裁:A4判/230頁+CD ● 2011年11月発刊
 価格 140,000円 (税込 147,000円) 国内送料込
 現物案内を希望します

(株)フォーイン行 **ダイヤル** Fax: 0120-0000-73

年 月 日

御社名 _____

御利用部署名 _____

〒 _____

御住所 (送付先) _____

TEL 番号 _____ FAX 番号 _____

E-mail address _____

(フリガナ) 御担当者氏名 _____ 御役職 _____

通信欄 _____

第1章 アジア自動車部品産業の現況と将来展望 1

1. アジア部品産業：低価格車を支えるコストと品質
世界最適調達をなかで供給拠点として台頭 2

第2章 完成車メーカーのアジア生産・調達動向 13

1. 現代自グループ：韓国では生産効率化、海外では地域ごとに相互補完機能を強化 14

2. Tata Motors：10万~20万ルピーの廉価車・トラックが好調、
Pantnagarなどで能力増強を進める 22

3. Mahindra & Mahindra：2010年に部品調達先を海外に拡大、
大型投資で増強を進める 24

4. Proton：提携拡大で製品ライン多様化へ、
パワトレ内製やサプライヤー育成を強化 25

5. トヨタグループ：Etiosなどの廉価車投入を加速、
現調強化によるコスト低減に注力 26

6. ホンダ：新型Brioを軸にアジア事業を強化、
性能・品質・コストのバランスが成否の鍵に 30

7. 日産：March/Micraを機に増産と現地化が進展、
インドとASEANの供給拠点化が加速 32

8. スズキ：インドを日本並みの拠点を育成、
ASEANでも小型車投入に伴い現地化強化 34

9. いすゞ：タイのピックアップ事業をさらに強化、
新興国トラックによる市場開拓が本格始動 36

10. 三菱自：タイ工場を年産50万台体制に強化、
グローバルスマールの製品競争力が鍵に 38

11. GM：韓国ではアジア主要拠点向けKD事業を強化、
インドでは小型車の生産能力を増強へ 40

12. Ford：インドを小型車とエンジンの輸出拠点に、
ASEAN事業はタイに集約する方向 42

13. VWグループ：インドで小型車投入を加速、シェア拡大に
問われる国産化率の引き上げ 44

14. Daimlerグループ：インドで現地専用トラックを投入へ、
三菱ふそうはインドネシアを強化 45

第3章 アジア主要国の自動車部品産業の概況 47

1. 韓国：グローバルな部品供給体制づくりを加速、
環境車による成長戦略を本格化へ 48

2. 台湾：ICT産業で蓄積した製造技術を活用し
カーエレクトロニクス及びEV産業の育成促進を図る 60

3. タイ：Eco Car始動で年産250万台へ、
アジア・大洋州地域の核事業拠地に発展 68

4. インドネシア：LCG政策による自動車増産の期待高まる、
国産化強化の動きが拡大 78

5. マレーシア：HEV/EV分野の集積や高付加価値化を図り競争力強化を目指す 86

6. フィリピン：変速機などの分業拠点としての成長を進めるが
組立産業の流出が足かせに 92

7. ベトナム：コスト競争力を武器に分業拠点化が進行、
組立産業の成長停滞がボトルネック 96

8. インド：パワトレ部品などの輸出拡大と内需成長が進行、
2020年の部品生産は1,100億米ドルの可能性 100

9. パキスタン：AIDPでは部品産業拡大は図れず、
中古車輸入緩和政策で成長実現は不透明 112

第4章 主要自動車部品企業100社のアジア事業 117

日系41社 欧米系15社 韓国系19社
インド系12社 現地系13社

付録CD アジア自動車部品企業2,970社ダイレクトリー

◇韓国：350社 ◇台湾：457社 ◇タイ：625社
◇インドネシア：226社 ◇マレーシア：291社 ◇フィリピン：160社
◇インド：606社 ◇パキスタン：255社
(掲載内容：企業名、住所、連絡先、製品、納入先など)

「第4章 主要自動車部品企業の100社アジア事業」掲載企目次

◇日系企業 愛三工業 アイシングループ 曙ブレーキ工業 旭硝子 エクセディ NOK NTN エフ・シー・シー カルソニックカンセイ ケーヒン KYB 小糸製作所 サンデン ジェイテクト ショーワ スタンレー電気 住友電気工業/住友電装 タカタ タチエス ティ・エス・テック	TPR デンソー 東海理化 豊田合成 豊田自動織機 豊田鉄工 トヨタ紡織 日信工業 ニッパツ ニフコ 日本精工 ハイレックスコーポレーション パナソニック 日立グループ フタバ産業 ブリヂストン ミツバ 矢崎産業 ユニプレス ユタカ技研 リケン	◇欧米系企業 Autoliv Behr Bosch Continental Dana Delphi Faurecia GKN Hella Johnson Controls Meritor Tenneco TRW Automotive Valeo Visteon	現代 Dymos 韓国タイヤ 和承R&A 和信 現代Mobis 現代Powertech 現代WIA 錦湖タイヤ 萬都 平和精工 世鐘工業 SLコーポレーション 星宇オートモーティブ 星宇Hitech 裕羅コーポレーション	◇現地系企業 Siam Motorsグループ (タイ) Somboon グループ (タイ) Summitグループ (タイ) Thai Rungグループ (タイ) Thai Summitグループ (タイ) Astraグループ (インドネシア) Indomobilグループ (インドネシア) AAPICO Hitech (マレーシア) APM Automotive (マレーシア) Delloy Ventures (マレーシア) DRB-Hicom (マレーシア) Ingress (マレーシア) 全興国際集団 (台湾)	◇韓国系企業 Amalgamationsグループ Amtek Auto Anandグループ DAS コーポレーション Caparo India Heroグループ
--	--	---	--	---	--

現物案内のご紹介

フォーインでは、調査報告書のご採用可否の検討用として、お客様のご要望に応じて実際の調査報告書をお送り致しております。案内書やホームページだけでは、採用を決めかねているお客様の為に現物案内として、採用の可否を決定して頂くに必要な期間、ご覧になって頂くことが可能です。裏面の現物案内希望にチェックを入れてお問い合わせ頂ければ宅急便にて実際の報告書をお送り致します。詳細は、営業部までお問合せ下さい。

この他の見本ページも弊社ホームページでご覧頂けます

見本頁

方、マレーシア、フィリピン、ベトナム、パキスタンへの投資規模はインドやタイなどと比較するとあまり進んでおらず、分業拠点としての役割強化にとどまっている。
インドは、世界有数の自動車部品の供給拠点として成長したいと考えている。インド自動車部品工業会ACMAは2010年8月に将来予測レポート「Vision 2020」を発表し、インド国内の自動車部品生産高が2020年には1,100億米ドル(約9兆円)となり、2010年度の5倍相当にまで拡大する可能性があると指摘。内訳は、国内需要の増加による生産高の増加と、輸出による生産高の増加の2つによる。

アジア自動車部品産業の現況を鳥瞰

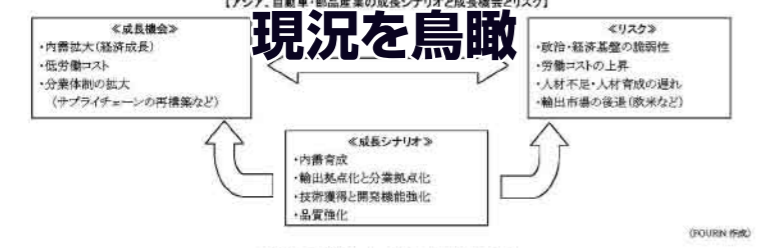
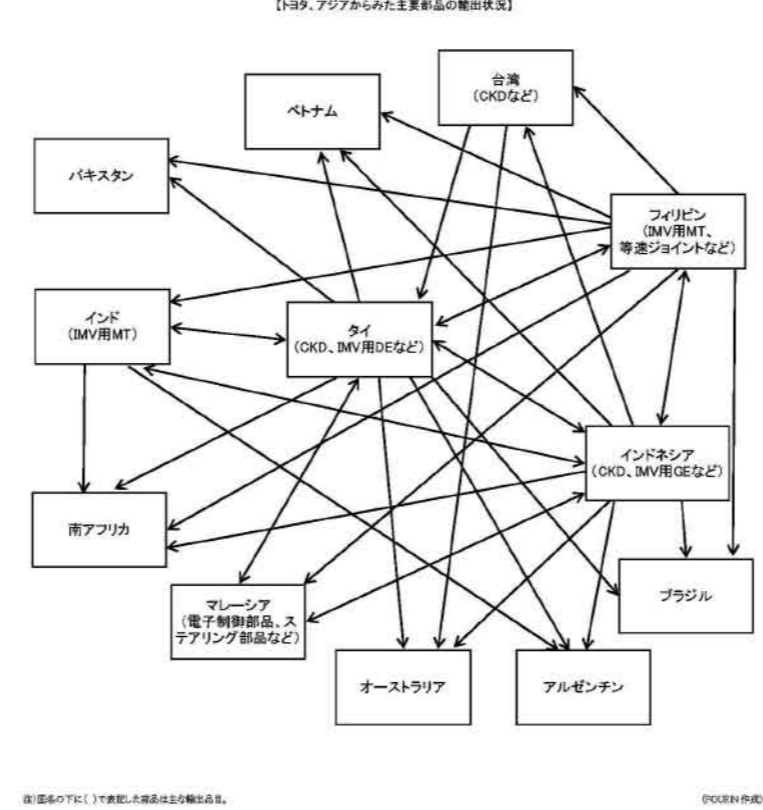


Table titled '【アジア、自動車メーカーの現地化発展プロセス】' showing the progression from 'KD結立' (KD establishment) to '現地化の進展状況' (Progress of localization) through '現調率強化' (Strengthening of current production), '輸出拠点化' (Export hub formation), and '自立化' (Independence), leading to '車台開発等' (Vehicle development etc.). It includes a '具体例' (Specific examples) section with details on Proton, Mahindra, and Tata Motors.

5. トヨタグループ：Etiosなどの廉価車投入を加速、現調強化によるコスト低減に注力

トヨタグループのアジア地域における生産・調達体制をみると、性能・コスト・品質の面で競争力が高まっている。近年新興市場に注力し、低価格車から高価格車まで幅広い製品ラインナップを揃えている。特にインドでは、Etiosなどの廉価車投入を加速し、現調強化によるコスト低減に注力している。また、タイでは、Eco Carの導入を機に、現地生産体制の構築を進めている。



8. インド：パワトレ部品などの輸出拡大と内需成長が進行、2020年の部品生産は1,100億米ドルの可能性

インドでは、自動車生産や部品輸出の拡大を背景に、国内外の部品メーカーが増産や開発強化に向けて生産体制の刷新を進めており、2020年の部品生産高は1,100億米ドルに達する可能性がある。このうち、国内需要が約800億米ドル、輸出が約300億米ドルになると見られ、成長するインド国内で事業を拡大するとともに、輸出も積極的に展開する。

マインド部品産業概要
インド自動車部品工業会 ACMA の会員数は 623 社で、地域別の内訳は北部 249 社、西部 188 社、南部 146 社、東部 40 社となっている。ACMA が 2010 年 8 月に発表した「Vision 2020」によると、2010 年度の自動車部品生産高は 260 億米ドルになると予測していたが、ACMA は 2011 年 8 月、自動車需要の高まりにより、2010 年度の生産高は予想を大幅に超える 399 億米ドルになったと発表した。
インドで事業展開する自動車部品メーカーをみると、国内企業では、Anand や Samvardhana Motherson、Kalyani など 10 以上の企業グループが存在し、中核企業の下に多くの企業を従える構造になっている。Motherson-Sum Systems や Lucas TVS に代表されるように、海外主要メーカーとの合併で事業展開するグループも多い。また海外企業の買収に乗り出すグループもあり、Kalyaniグループの Bharat Forge のように欧州

